

ちょうふ環境市民懇談会をご存知でしたか？

「懇談会」が調布市自然環境保全計画に盛り込まれた目標を実現させるために、行政・事業者・市民の話し合いの場として設立されてから8年が経過しました。この間崖線樹林地の観察会や野外イベントなど調布の環境の特徴を知る活動をすすめてきました。また、保全活動を担う人を育てる「雑木林塾」の企画運営を行いました。現在、当時皆無だった「雑木林の保全活動グループ」が、入間樹林の会やかに山の会など数団体が活動するまでになっています。

2008～「環境市民」のこれから

2006年3月、市民参加で新たに「調布市環境基本計画」が策定されました。懇談会として7年間の活動体験をもとに「懇談会からの提言」を提出し、計画に生かされました。問題は、今後計画実現のためにどのような道筋を描き、立場を超えた連携が出来るかです。それを楽しく継続していくためにはどうすべきか。

そこで、2008・3・1「環境市民の交流会」を開催します。

これまでの自然環境分野だけでなく、ごみ問題や、エネルギー・地球環境・環境教育などの分野で多岐に活動している人たちが、まず知り合い、情報交換する作業から始めましょう。

Think globally

一緒にできるかもネ

4月	5月	6月・・・	9月・・・	11月・・・	12月
・野川の生き物調査	・アースデイ	・環境フェア	・雑木林下草刈り	・野外イベント	
・△の会川の清掃	・××会清掃	・〇〇イベント	・新米を食べる会	・雑木林お楽しみ会	

- ◆大きな地図に活動している場所と内容を書き込み「エコマップ」をつくる。
- ◆1年をとおしてどの時期に活動しているのか「エコカレンダー」に書き込む。
- ◆この日集まってくれた「ひと」のネットワークを、つなぎ・発展させる。

活動拠点が必要だよ

そして2008年から、また新たな一歩を踏み出したいと思います。あなたも一緒にしませんか？

Act locally

調布の自然 鳥編 カラスの仲間

冬から春にかけては鳥たちの移動の時期でもあり、普段は見かけない珍しい鳥が見られるということからバーダー＝バードウォッチャーにとっては楽しみな季節でもあります。そこで今回は市内のどこでも必ず出会うことの多い身近な鳥カラス、の仲間4種類のうちオナガとカケスを対象に双眼鏡でじっくり観察し、識別力をアップすることにしましょう。

オナガ 関東地方に多く西日本にはいない。調布周辺の多摩地方には特に多かったといわれるが、近年は大きな樹木のある国分寺崖線の開発や屋敷林等の減少に合わせるかのように数が減っている。

姿：ハトくらいの高さで首はハトより大きく、尾羽が長く先端は白い。体は灰色で頭は黒い帽子をかぶったようで翼と尾羽は青い。意外と明るいい色ではとすような美し



オナガ



カケス

さを持っている。声：ゲーグエイグエイ・茂みの中では小声でささやくようにキューイキューイキュルキュル。行動：大きな樹木のある林を中心に集団で生活。ハジプトガラスなど危害を加えようとする相手には仲間と集団で撃退する。

カケス 秋から冬にかけて人里に現れる。この冬は入間樹林と深大寺植物園（ともに国分寺崖線に連なる）で見ました。

姿：キジバト大でズングリしており、ゴマ塩頭に背面や胸が灰褐色で白い腰。翼には青と白と黒の縞模様、飛んでいるときに翼と腰の白が目立ち美しい。声：ジャージャーとうるさく、他の動物の鳴きまねも上手い。

行動：ドングリ好きで大量に貯食する。(里)

サステナブル (持続可能) な里・佐須の里を訪ねて (3)

12/1 のイベントで歩いた佐須の昔を、案内役の小林さんにまとめていただきました。

「文化」をつなぐ農の営み

佐須の里を歩くと、屋敷の門先でいくつかの直販所に出会う。置かれているのは、葉物野菜と根菜類、また季節の果実を置く店もある。もちろん市場にも出している。佐須の里は調布の農業の拠点の一つだ。明治時代初期の旧佐須村の作物と収量の記録が残っている。(富澤家文書「近世調布の村々」記載) 里の農事暦も作ってみた。

作物	収量
小豆	3石2斗
粟(あわ)	53石3斗
稗(ひえ)	106石7斗
黍(きび)	24石
蕎麦	19石8斗
胡麻(ごま)	1斗
荳(えごま)	7石9斗
里芋	28駄 1008 貫
薩摩芋	30駄 1080 貫
桑	25駄 900 貫
繭	1石2斗
茶	5貫目
藍葉(あいば)	50貫目
小麦粉	10800 貫目
菜種油	3石2斗

〈富澤家文書：明治6年1月 数目調書〉
「近世調布の村々」より

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
米				苗代	田植	草取	草取			稲刈り			
大麦						麦刈り						蒔	
小麦						麦刈り						蒔	
菜種			取入れ									蒔	
大豆							蒔				取入れ		
小豆							蒔			取入れ			
粟						蒔				取入れ			
稗						蒔				取入れ			
黍						蒔				取入れ			
蕎麦						蒔	取入れ				秋ソバ取入れ		
胡麻						蒔				取入れ			
荳							蒔			取入れ			
里芋						植え				取入れ			
薩摩芋						植え	ツルカエシ			取入れ			
桑													
繭						春蚕		夏蚕	晩秋	晩々秋			
茶						取入れ							
藍葉			蒔							取入れ			

作：小林

この記録を見ると、かつての佐須の里の田畑の姿と里人の暮らしをうかがうことができる。江戸時代の検地で定められた佐須村の「村高」は215石前後、そこから貢

納高(村全体の税額)を見積もると、115石前後、貢納の基本は米だったので、田で取れた米はほとんど領主の元に納められ、里人の口には入らなかった。その代わりに色々な雑穀を栽培し食べ、また村外に出していた。これらの作物は、今、健康食品やサステナブルな資源植物として再評価されている。また現代ではほとんど見られなくなった「まぼろしの作物」※もある。多種の穀類(主食)栽培に若干の商品素材植物の生産を行う、必要カロリーを完全にまかなえる骨太の農業だった。また里の農事暦を見ると、一年を通し穀類の収穫があり、忙しいが、リスクには強い農業サイクルが読み取れる。

自給率が著しく低下し、食品の安全確保の難しさが増しているこの国にあって、祖先の農の営みから学び直すことは多い。佐須の大地と里人によって伝わる農の営みは、将来にわたり、伝えられるべき文化であり、貴重な遺産である。

※「荳(エゴマ)」シソ科の作物、油を取った。現在、健康食として再評価、東北地方の一部地域に残る。

(小林冬樹)

◆カニ山の会

2/9(土) 参加者9名

先月は雨雪のため活動が中止になりましたが、今月は久しぶりに活動ができました。写真右は、落ち葉掻き。うすく掻くところと深く掻き取るところを半々にして、春以降の下の芽吹きの様子を観察して行くことにしました。ヤブコウジが落ち葉の下に一面に広がっていました。

午後には雪の予報がでていましたので「お楽しみ会」と同時進行を進めました。3つのかまどで薪やササを燃やし、サツマイモやメザンの焼いたものを肴にビールで乾杯。(M.E)



◆入間・樹林の会

整備工事の進捗状況を見ながら、樹林地内を観察。工事中のせいか、ごみの投げ捨てが多いことは残念です。電子レンジ・パソコンキーボード・プラスチックケースのふた・使い捨てカイロなど家庭ごみが目立ちます。犬のフンを袋に入れたまま棄ててあり10袋ほどになり、飼い主のマナーの悪さには閉口します。市民との共生が最も問われているように整備後の公開が気になります。

マテバシイ広場では、明るい樹林地をめざし今年度の伐採木・剪定枝を決めました。樹林地内の保全是、工事が終了してから再度検討していく必要があります。花が咲く木の補植をとの意見もでした。

地域センターに戻り、鎌の刃研ぎをしました。手入れをすると愛着もわきます。来月は落ち葉かきと、工事完了後の保全計画について話合います。(安部)



整備の進む樹林地内

今年度の雑木林塾 を振り返って

2月10日に、今年度最後の講座となる第6回雑木林塾を行いました。塾の活動としては3月1日の交流会の発表を残すだけとなりましたが、それに先駆けて毎回参加者をお願いしている講座の感想などを基に、今年度の活動を振り返ってみたいと思います。

第1回講座は昨年の9月16日に開催し、調布市の自然や植生についての講義や布田崖線などの観察を行いました。参加者は植物の種類や実際の管理作業について興味を持たれたようです。

第2回講座は10月14日にへび山で開催し、へび山周辺の歴史や環境等の解説の後、初めての管理作業(ササ刈り)を行いました。初めてカマでササ刈りを行う人も多く、悪戦苦闘しながらも作業に手応えを感じていました。

第3回講座は11月10日に開催しましたが、あいにくの雨で作業ができず、カニ山の会の方々による解説を受けながらカニ山とその周辺の観察を行うのみの講座となってしまいました。

第4回講座は12月10日に若葉町の緑地の解説と管理作業を行いました。ここでのシュロ抜きは大変でしたが、参加者はすぐにコツを掴んで短い時間で多くのシュロを抜いていました。

第5回講座は今年の1月20日にへび山で開催しました。第4回で刈ったササの斜面はきれいなままで、参加者は自分たちの作業の効果を実感しているようでした。

第6回講座ではこれまでの感想をまとめる事を中心とした活動を行いました。まとめの結果は3/1の「環境市民の交流会」で発表。塾生たちが雑木林で何を感じたのか、ぜひ発表を聞きにいらして下さい。(ニデア)



小池講師の説明を聞きながら樹林を観察する「塾」メンバー



調布市民放送局の今江です。昨年は、いくつかの団体の皆さんの活動に参加させていただいて、一部は番組で紹介させていただきました。

調布には、崖線の雑木林や野川や多摩川などの川、湧水や各用水など、いろいろな自然がいっぱい残されていて、これらの自然を守るために、多くの方々が楽しみながら活動していることを知りました。自分の住む街の自然の良さや大切さを知ることから、何かが始まると思っています。

今後も調布の自然や、それに関わる皆さんの活動などを、取材していきたいと思っています。ぜひご協力をお願いいたします。

「調布市民放送局」は、市民がボランティアで番組を作りケーブルテレビ(J:COM)で調布の様々な情報をお送りしている団体です。過去に放送した番組は、弊局ホームページ(<http://www.chofu-catch.tv/>)でご覧いただけます。皆さんの活動に関する情報、番組についてのご意見ご感想などお寄せいただければと思います。

調布市民放送局 今江 知延

メール: gha00676@nifty.ne.jp

ちょうふ あちこち



2月4日
入間樹林地に
残る雪



2月3日 宅地が広がる染地2丁目の雪景色、左上に少し見えるのがへび山の樹林

メンバー随時募集 ☆ 環境市民 活動カレンダー & おしらせ ☆

◆環境モニター

3/8 (土) 10:00~12:00

集合場所: 多摩川ワンド上ベンチ

内容: ワンド周辺の植物調べ

※市内の自然環境調べや「調布そぞろ歩き」のガイドを行っているグループです。※来年度(08年)メンバーを募集します。是非環境政策課までお申し込み下さい。

◆カニ山の会

3/8 (土) 10:00~14:00

集合場所: 深大寺自然広場(野草園横)

内容: 樹名板の制作など

※原則毎月第2土曜にカニ山東樹林の保全活動を行っています。活動に参加してみたい方は直接集合場所へ。

※会費500円+保険料500円(年間)

◆入間・樹林の会

3/16 (日) 9:30~12:00

集合場所: 入間地域センター

内容: 樹林保全活動

◆上記3グループとも、問合せは環境政策課: 042-481-7086 へ

第55回懇談会運営会議

日時: 3/10 (月) 18:30~20:30

場所: たづくり304会議室

内容:

- ・今後の環境市民懇談会について
- ・3/1 イベントのふりかえり

※どなたでも参加できます。資料の準備の都合上、会議に参加希望の方は事前に環境政策課へご連絡ください。

編集後記

この自然便りが発行される3/1には環境活動グループの交流会が開催される。芽吹きの春! コミュニケーションから新たな活動が広がることを願って。(N, K)

環境政策課の窓

『一人は皆の為に、皆は一人の為に』

2月17日、第2回東京マラソンが寒風の中盛大に行なわれました。同日、私も香港国際マラソンに参加してはいたわけですが、香港は日本と1時間の時差にも関わらず気候はとても暖かく、日中の気温は15度前後でとても快適でした。



街に並ぶ高層ビル群に目を奪われながら、香港の経済成長を改めて実感する一方、環境が置き去りにされている光景に考えさせられる点がいくつもありました。一番の問題はやはり大気汚染で、車から排出されるガスの異臭や、中国本土から流れてくる大量の温室効果ガスの早急の対応が必要です。また、街にあふれるたばこのポイ捨て等も多く見られました。その一方で公園等、公共の場は完全禁煙がなされており環境政策の一面も感じさせられました。

この度の香港マラソンは、初の海外レースということもあり体調の心配もありましたが、日刊スポーツの方々に支えられ無事に走りきることができました。今までマラソンは一人でするスポーツだと思っていましたが、そこまでは多くの方の支えがあり、チームスポーツであるということを学ばせて頂く旅行となりました。(小松昭博)

奄美通信 その4

環境モニターなどで活躍していた山室さん(現 奄美のマングースバスター)から届いたお便りです。

こちらでも先週土曜日から、去年年末にバスターズ有志で調べたギンネムやセンダングサなどの分布調査をとりまとめ、「マングースだけじゃない! 島に蔓延る外来植物たち」と題して、奄美野生生物保護センターでポスター展示をはじめました。

道沿いのギンネムなどを監視する必要性と、外来植物の繁茂を抑え在来植物に配慮した道の管理を訴えるとともに、林道や通行量の少ない旧道を自然散策路として活用しようとする内容です。(ガイドブックで案内されてるせいで、観光客はみんな金作原に行くので(大型バスまで来る!))、このまま世界遺産になったら、金作原がオーバーユースで荒れるのが目に見えている。金作原と似た景色なら、島中どこにでもある。ただガイドブックに載ってないだけ) もっとも、ただセンターで展示してるだけじゃ、宣伝しても誰も見に来ないので、この計画の肝心なところは、エッセンスをパンフレットにして、それを行政(県と市町村の道路管理担当と環境保全担当)に見てもらうことにあります。(2/20 山室)



リュウキュウコスミレ

「ちょうふ環境市民懇談会」は、調布の自然環境を市民・行政・事業者の協働で保全・改善・回復していくために設立されました。2001年から保全活動の交流・支援、人材育成、情報収集・発信、提言などの活動をしています。ぜひご参加ください。

ちょうふ環境市民懇談会

連絡先: 調布市環境政策課 tel 042-481-7086

E-mail: kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp

調布市ホームページでカラー版がごらんいただけます
→市公式HP→くらし→環境・緑化→ちょうふの自然だより